

自立活動学習指導案

1 単元名 さわやかに話をしよう 2－(2)・3－(2)・6－(2)

2 生徒の実態

<生徒の実態を障がいによる学習上または生活上の困難の視点から整理>

- ・視覚優位。絵を描くことが好き。
- ・広汎性発達障がい。初めてのことや自信のないことに対しては見通しがもてず、消極的になる。
- ・話の要旨をとらえること、話を最後まで聞いて質問に答えることが難しい。
- ・苦手なことを強要されたり、納得できないことがあったりすると不安定になる。

<生徒の実態と考えられる要因を自立活動の区分に即して整理>

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・スケジュールやマニュアルがあり、見通しがもてると活動に参加できる。 ・苦手なこと、意に反することに対しては心理的圧迫を感じ、不安定になる。	・担任など自分のことを受け止めてくれていると本人が感じる相手に対しては安心して関わることができるが、初対面の人にはどう接したらよいかわからず、話しかけられても返事ができないことがある。	・視覚優位。 ・聞き取ったことや質問されたことの要旨をとらえることが難しい。	・背中や腰・首の筋力が弱い。姿勢に気を付けて生活することが困難。	・緊張したり不安を感じたりすると集中して話を聞くことができないことがある。 ・状況に応じて適切な言葉を使って想いを伝えることが困難な面がある。

<幾つかの指導目標の中で
優先する目標として>

指導目標	・不安定になったときにも人や場の状況を理解し、どうしたらよいかを考え、適切に対応することができる。 ・話の内容を正しく聞き取り、自分の言いたいことを適切に表現することができる。
------	---

<指導目標を達成するために
必要な項目の設定>

本単元の指導にかかわる項目・内容

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 情緒の安定に関すること <u>(2) 状況の理解と変化への対応に関すること</u>	<u>(2) 他者の意図や感情の理解に関すること</u> (4) 集団への参加の基礎に関すること	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	<u>(2) 言語の受容と表出に関すること</u> (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

具体的な指導内容	担任との信頼関係を基に、他の人や生徒とのかかわりを広げる	不安定になったときにも人や場の状況を理解し、どうしたらよいかを考えて対応することができる	話の内容を正しく聞き取り、自分の言いたいことを適切に表現する
	ア) 活動の見通しをもたせ、安心して活動できるようにする。 イ) 本人が目標をもってがんばったことやできたことが実感できるよう具体的に認め励まし、自己肯定感を高める。 ウ) 交流学級の担任、交流学級の生徒、実習先の人などと実際にかかわりをもつ学習を設定する。	エ) 急な予定変更や初めての場面に遭遇した時を想定したソーシャルスキルトレーニングを行い、自分の気持ちをコントロールし、困難な状況に対応するスキルの獲得をする。	オ) 挨拶の仕方や適切な受け答えの仕方のソーシャルスキルトレーニングを行い、話を聞くためのポイントや話すときのポイントを習得して様々な人とコミュニケーションができるようにする。

3 単元指導計画(学級活動4時間・自立活動2時間)

本学級の生徒の実態及び身に付けたい力を踏まえ、指導にあたっては学級活動「校区の小学校(知的障がい特別支援学級)の児童との交流会」と自立活動とを組み合わせた単元構成とし、本生徒の得意なことを生かした活動を通して状況への対応スキルや人とのかかわりにおけるスキルを身に付け、実際の場面で活用できることをねらいとした。

(1) 目標

- ・自分の目標と活動の見通しをもち、落ち着いて最後まで学習に取り組むことができる。
- ・交流会などの機会を生かして自分から他者とのかかわりをもつことができる。
- ・人や場面の状況に応じて、相手の話を最後まで聴いたり、話しかけたりすることができる。

(2) 単元指導計画

	時	主な活動内容	個別の目標	手立て
学級活動	1	交流会の計画を立て、自分の目標をもつ。	・計画表を作成して見通しをもつことができる。 ・分からないことや不安なことは尋ねるなどして自分で解決できる。	ア) どのような計画を作れば安心して取り組めるか、教師と一緒に考える。
	2	交流会で行うプレゼン発表やゲームの準備をする。	・相手に伝わるかどうかという視点でプレゼンの内容を見直し、修正点を指摘された場合にはその箇所と理由を理解して直すことができる。	エオ) 相手に伝わるプレゼンのポイントをあらかじめ示し、生徒が自分で確認できるようにする。

	時	主な活動内容	個別の目標	手立て
自立活動	1	教師や隣のクラス(知的障がい学級)の生徒を相手にプレゼンの発表練習を行う。	・相手に分かりやすい発表の仕方をするためにはどうしたらよいかを考えて練習をすることができる。 ・教師や友達の助言を聞いて改善することができる。	アエ) 機器の不具合など、想定されるトラブルに対し、対策を一緒に考え、必要な準備をする。 エオ) 相手に伝わる話し方のポイントを提示し、振り返ることができるようにする。
	2 本時	相手に伝わるさわやかな話し方を考えて練習する。	※本時の目標参照	オ) 指示を復唱させ確実に聞き取ることができるようにする。

	時	主な活動内容	個別の目標	手立て
学級活動	3	小学生との交流会で自信をもって発表をした	・相手に伝わる話し方のポイントを意識し、自信をもって発表することができる。	エオ) 想定されるトラブルに対してはこれまでの学習を活かして自分で対応できるよう、掲示物や手順カードを提示する。
	4	り質問に答えたりすることができる。 相手の様子を見て自分から声をかけることができる。	・楽しくゲームができるように、相手の状況を見ながら適切に声をかけることができる。	ア) めあてを意識して取り組めたことを評価し、自己肯定感につなげる。

4 本時の目標と評価の観点

(1) 目標

- ・自分の目標と活動の見通しをもち、落ち着いて最後まで学習に取り組むことができる。
- ・相手に伝わるように話し方を考えて話すことができる。
- ・相手の話を最後まで聴いて答えたり自分から話しかけたりしてかかわりをもつことができる。

(2) 評価の観点

- ・自分で決めた目標を意識して最後まで取り組むことができたか。
- ・相手に伝わる話し方のポイント(大きな声・よい姿勢)に気を付けて話すことができたか。
- ・相手の話の内容を理解して正しく答えることができたか。

【ポイント①】(心理的な安定) 授業を始める際に、本人の心理状態を観察する。学習に入ることができない状況の時は無理をせず、本人が安定するような働きかけをする。(時間を決めて好きな活動をする、クールダウンする場所へ行く 等)

【ポイント②】（定着を図る学習過程の工夫）

発表の練習を 2 回行い、その間に中間評価を設定する。

自分の活動をめあてに即して評価することにより、自己を客観的に振り返る力を身に付けるとともに、評価をフィードバックして次の活動に生かすことで身に付けたいスキルの定着を図る。

【ポイント③】（困難を解決する指導・援助の工夫）

機器の故障など、想定されるトラブルについては、機器を使わなくても発表できるように発表原稿等の方法を用意しておくなどして、安心して活動できるようにする。困難な状況にうまく対応できたことをVTRや写真等に記録し、振り返りの時に活用して自信をもたせる。

【ポイント④】（評価の工夫）本人ができたことを実感できる方法で行う。（シー ル・花丸・握手・ハ イタッチなど）